

資料 8

平成30年度大学ポートレート
ステークホルダー・ボード
平成30年10月10日

大学ポートレートの改善について ーデータ活用の視点からー

大阪府立大学 副学長（教育・入試）

大学IRコンソーシアム代表理事

高橋 哲也

平成30年度大学ポートレートステークホルダー・ボード

2018.10.10



大学ポータルレートとの関わり

- 大学情報データベース開発委員会委員
(2011)
- 大学ポータルレート (仮称) 準備委員会
ワーキンググループ委員(2012~2014)
- 大学ポータルレートセンター研究協力者

大学ポータルサイトのデータ

| 大学の基本情報 | |
|--------------|-----------------|
| 大学の基本情報 | 大学名 |
| | 大学の連絡先 |
| | 大学の種類 |
| | 本部所在地 |
| | 設立年 |
| | 総学生数 |
| | 総教員数 |
| 大学の教育研究上の目的等 | 大学の教育研究上の目的等 |
| 大学の特色等 | 大学の特色等 |
| 教育研究上の基本組織 | 学部、研究科、学科の名称 |
| | その他の学内組織の名称 |
| キャンパス | キャンパスの概要 |
| 評価結果 | 認証評価及びその他の評価の結果 |
| 学生支援 | 修学支援 |
| | 心身の健康に係る支援 |
| | 留学生支援 |
| | 障がい者支援 |
| | 就職・進路選択支援 |
| 課外活動 | クラブ活動の状況 |
| | ボランティア活動の状況 |

| 学部・研究科の情報 | | |
|------------------|--------------------------|-------------|
| 教育研究上の目的と3つの方針 | 学部、研究科、学科等ごとの目的 | |
| | 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー） | |
| | 教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー） | |
| | 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー） | |
| 学部・研究科等の特色等 | 学部・研究科等の特色等 | |
| 教育課程 | 学科、専攻、専攻課程等の名称 | |
| | 修業年限 | |
| | 取得可能な学位 | |
| | 教育課程の特色等 | |
| | 授業科目 | |
| | 授業の方法・内容 | |
| | 年間の授業計画 | |
| | 学生が修得すべき知識及び能力に関する情報 | |
| | 学修の成果に係る評価の基準 | |
| | 卒業・修了認定の基準 | |
| | 取得可能な主な資格 | |
| | 転学部等の可否、費用負担 | |
| | 入試 | 入学者数 |
| | | 入学者の構成（男女別） |
| 入学者の構成（出身高校所在地別） | | |
| 入学者の構成（入試方法別） | | |
| 実施している入試方法 | | |
| 教員 | 入試特別措置 | |
| | 教員組織 | |
| | 教員数 | |
| | 教員の構成（職位・男女・外国人教員別） | |
| | 教員の構成（年齢別） | |
| | 教員が有する学位、業績 | |

| | |
|-----------|--------------------------|
| 学生 | 収容定員 |
| | 学生数 |
| | 学生の構成（年次・男女・外国人学生別） |
| | その他の学生数 |
| キャンパス | 編入学定員 |
| | 編入学者数 |
| | 学部・研究科等のキャンパスの所在地 |
| | アクセス |
| 費用及び経済的支援 | 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育環境 |
| | 学生寮の整備状況 |
| | 授業料 |
| | 入学料 |
| | その他の徴収費用 |
| | 学納金の延納・分納の可否 |
| | 休学及び復学に係る費用 |
| | 費用に関する説明 |
| | 奨学金額 |
| | 奨学金の受給資格 |
| 奨学金の支給枠 | |
| 授業料減免 | |
| 進路 | 卒業者数・修了者数 |
| | 卒業・修了者の構成（職業分類・男女別） |
| | 卒業・修了者の構成（産業分類・男女別） |
| | 卒業・修了者の構成（就職地域別） |
| | 進学者数、就職者数 |
| | 卒業・修了後の進路 |

※黄色は公表が任意とされている項目

大学ポートレート設置・目的

大学ポートレートは、データベースを用いた大学の教育情報の公表・活用のための共通的な仕組みとして、次のことを目的としています。

- 大学の多様な教育活動の状況を、国内外の様々な者にわかりやすく発信することにより、大学のアカウントビリティの強化、進学希望者の適切な進路選択支援、我が国の高等教育機関の国際的信頼性の向上を図る。
- 大学が自らの活動状況を把握・分析するために教育情報を活用することにより、エビデンスに基づく学内のPDCAサイクルの強化による大学教育の質的転換の加速、外部評価による質保証システムの強化を図る。
- 基礎的な情報について共通的な公表の仕組みを構築し、各種調査等への対応に係る大学の負担軽減することにより、大学運営の効率性の向上を図る。

大学ポートレートウェブサイト

<http://portraits.niad.ac.jp/purpose/>

公表の考え方

基本的な考え方

・大学ポートレートによる大学の教育情報の公表は、法令で定められたものではなく、大学ポートレートへの参加・不参加は各大学の任意となっています。

公表する情報

- ・学校教育法施行規則等で公表が義務づけられた情報
- ・外部評価の結果（認証評価、国立大学法人評価等）
- ・大学進学希望者や保護者等の関心の高い情報
- ・大学等の特色が分かる情報
- ・公表する情報は、すべて大学から提供されたものです。

公表の目的

・大学教育に関係を有する者、中でも大学進学希望者とその保護者等に分かりやすいものとなるよう構築しています。

公表の形式

- ・数値に加えて文字・図・グラフ等を活用。画一的なランキングにならないようページビュー形式で公表しています。
- ・国公立大学と私立大学とでシステムの管理者が異なりますが、キャンパスの所在地などの共通枠組の中で国公立を通じた検索を可能としています。
- ・公表情報の充実の観点から、各大学ウェブサイトへのリンクを活用しています。

大学ポータルレートの課題

- 相互比較できない
- データの活用が困難（全体集計すらない）
- データの種類がインプットデータに集中、アウトプットやアウトカムデータが殆どなく、質保証に結びつかない
- ポータルレートデータ入力のため大学の負担が増えている

データの種類

- インプットデータ（大学としての基礎的条件の整備状況に関するデータ）
例：教育研究組織・教育課程・開講授業科目・教員組織・教育研究施設
性質：定量的でデータとして提供が容易
- プロセスデータ（大学の設置目的に沿って展開される諸活動に関するデータ）
例：講義・演習・実験実習等の教育活動の内容とその活動に関する調査、研究活動の内容とその成果、FD活動の内容と活動に関する調査
性質：形成的、定性的でデータとして提供が難しい
- アウトプットデータ（活動によって生み出された外形的な結果に関するデータ）
例：受験者数・入学者数、受講者数、授業の成績、留年・退学数、卒業者数、就職・進学者数、学位授与数、研究論文数、特許数、競争的資金獲得額等
性質：定量的でデータとして提供が容易
- アウトカムデータ（目標の達成度を示すデータ）
例：大学の教育目標に関する学生調査、学生ポートフォリオ、卒業生の学修成果に関する調査、学習目標の達成度評価試験等
性質：形成的、定性的でデータとして提供が難しい。

活用のためのデータ

- 高等教育全体で学修成果が重要視される中でアウトカムデータが最も重要
- アウトプットデータもアウトカムとの関係があり量的データとして重要
- インプットデータは相互比較できれば活用可能
- プロセスデータはポートレートのためのデータとしては不要（各大学へのリンクで十分）

Unistats

英国の例

- Unistatsは、HEFCEが提供する大学情報ウェブサイトで、2007年に構築された。
- 各大学が提供する教育課程（学士課程・大学院課程）ごとの情報を一元的に発信
- 2010年に提供する情報がKIS(Key Information Set)に集約された
- Unistats はEnlandだけでなくUK全体が対象

KIS

- 大学のコース（学科より細かい学位を出す単位）の選択する上で学生にとってもっとも有益である情報をKey Information Set としてまとめた。
- NSS（National Student Survey）の項目などを中心に卒業生の給料、授業料、財政的支援、宿舎の費用などの情報

KIS で公開される情報

NSS（全国学生満足度調査）における次の質問にかかる結果：

- 教職員による説明に対する満足度
- 教職員による科目への関心を高める働きかけに対する満足度
- コース全般にかかる満足度
- 学習への十分な助言と支援に対する満足度
- レポートや試験結果に関する教員から学生へのフィードバックの迅速さに対する満足度
- 教員から学生へのフィードバックが、学生の理解不足の部分を解決したかに対する満足度
- 図書館の充実度に対する満足度
- IT施設へのアクセスに対する満足度
- 学生ユニオンに対する満足度

学習（様々な活動を含む）に費やした時間の割合（年間/段階毎の学習）

様々な統括的評価（summative assessment）手法（年間/段階毎の学習）

当該専攻のプロフェッショナル団体による認定（アクレディテーション）

機関が所有・財務的支援を行っている学生宿舎：年間平均費用（上質・低質の費用）、室数

民間の賃貸学生宿舎：年間平均費用（上質・低質の費用）

機関が提供する財政支援：授業料免除制度の有無、平均的な支援等、全国奨学金プログラム等

イングランド出身の申請者にかかる年間授業料

卒業6か月後の就職（進学）に関する情報

卒業6か月後の管理職（managerial/professional）の割合

給与データ（フルタイム）：

- 卒業6か月後の高額所得、平均給与、低額所得（専攻別、科目別）
- 卒業40か月後の高額所得、平均給与、低額所得

and/or

[More search options](#)

Compare: **3 Courses**



[Back to search results](#)

Comparing 3 courses

[View results on a map](#)



Your Measures

Student satisfaction

Employment & accreditation

Continuation & degree results

Entry information

| Course | MSci (Hons) Mathematics <input checked="" type="checkbox"/> | BSc (Hons) Mathematics <input checked="" type="checkbox"/> | BSc (Hons) Mathematics <input checked="" type="checkbox"/> |
|--|---|---|--|
| | Full time, Optional year abroad | Full time | Full time |
| Location | King's College London 1 location: Central London | University Of Bristol 1 location: University of Bristol | University of East Anglia 1 location: Campus A |
| Overall, I am satisfied with the quality of the course | 80% | 63% | 92% |

The teaching on my course



Learning opportunities



Assessment and feedback



Academic support

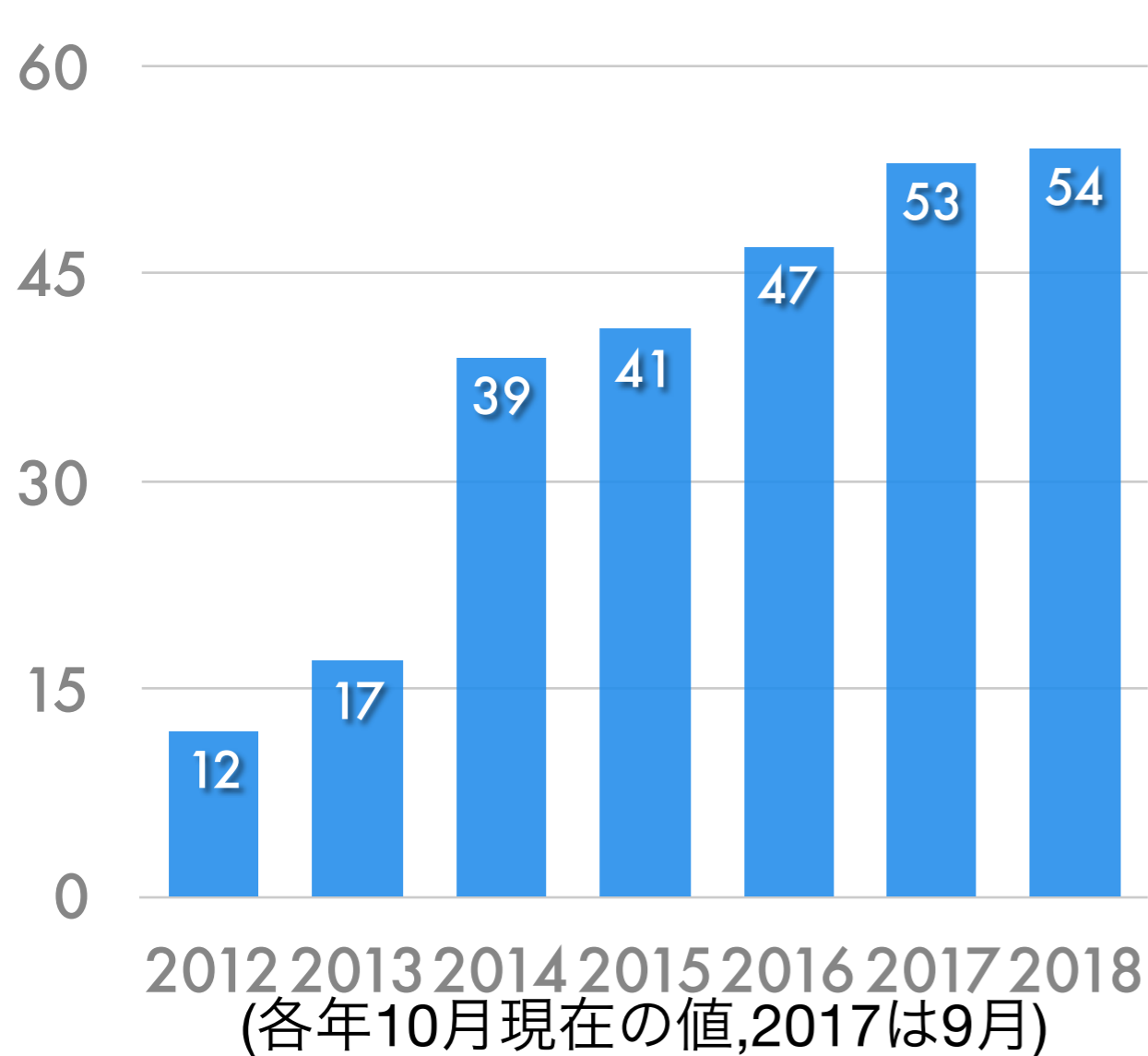


大学IRコンソーシアム

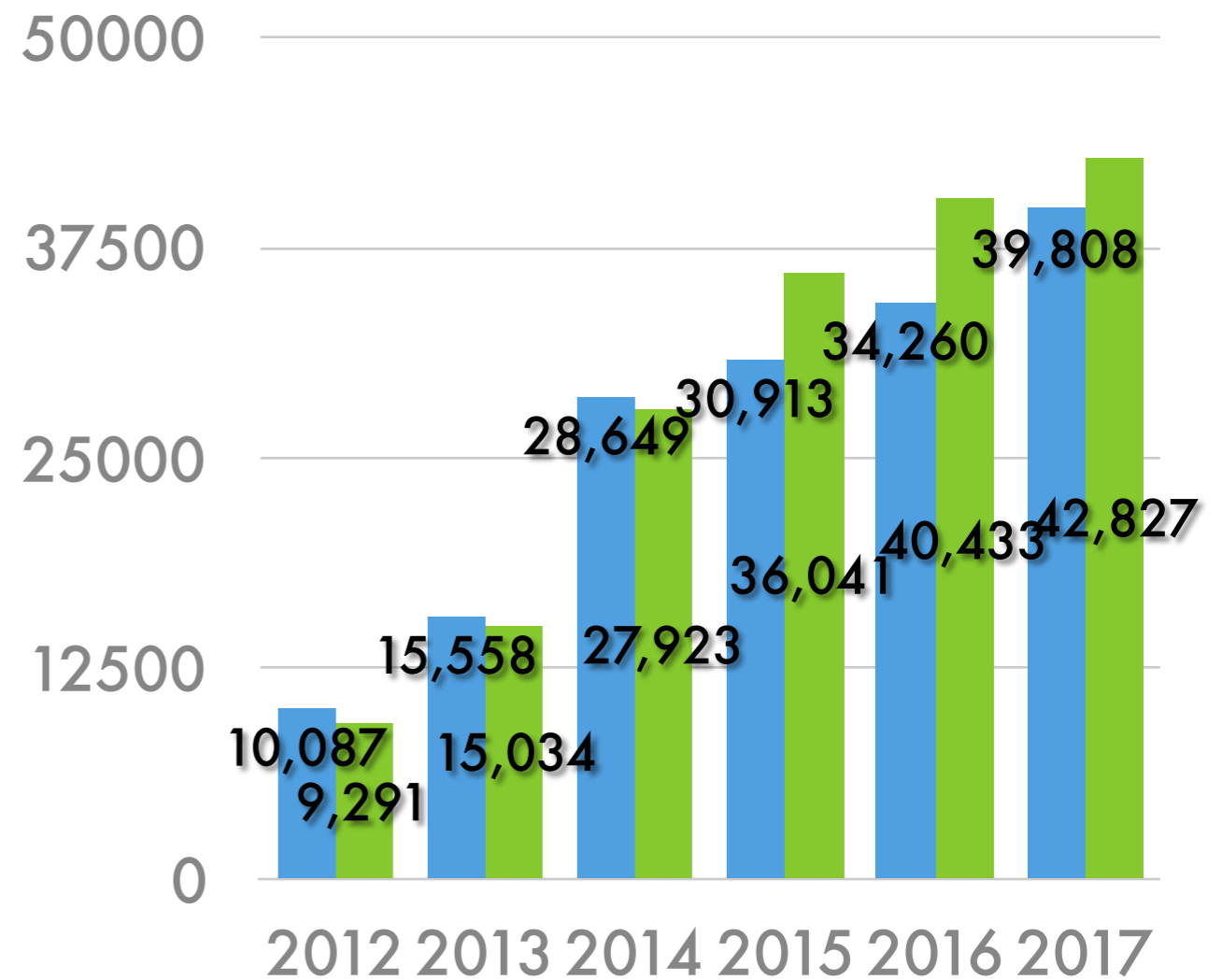
- 平成21年度大学教育のための戦略的大学連携支援プログラム
「相互評価に基づく学士課程質保証システムの構築－国公立4大学IRネットワーク－」の事業の発展・継承を目指して
2012年に発足
- コンソーシアムの事業目標
 - 4大学IR学生調査ネットワークの構築と活用
 - 連携大学間におけるIRネットワークシステムの構築
 - IRネットワークを活用した相互評価とベンチマーキング
 - IR人材育成のためのワークショップ事業

コンソーシアムの推移

コンソーシアム参加校数



学生調査参加者数



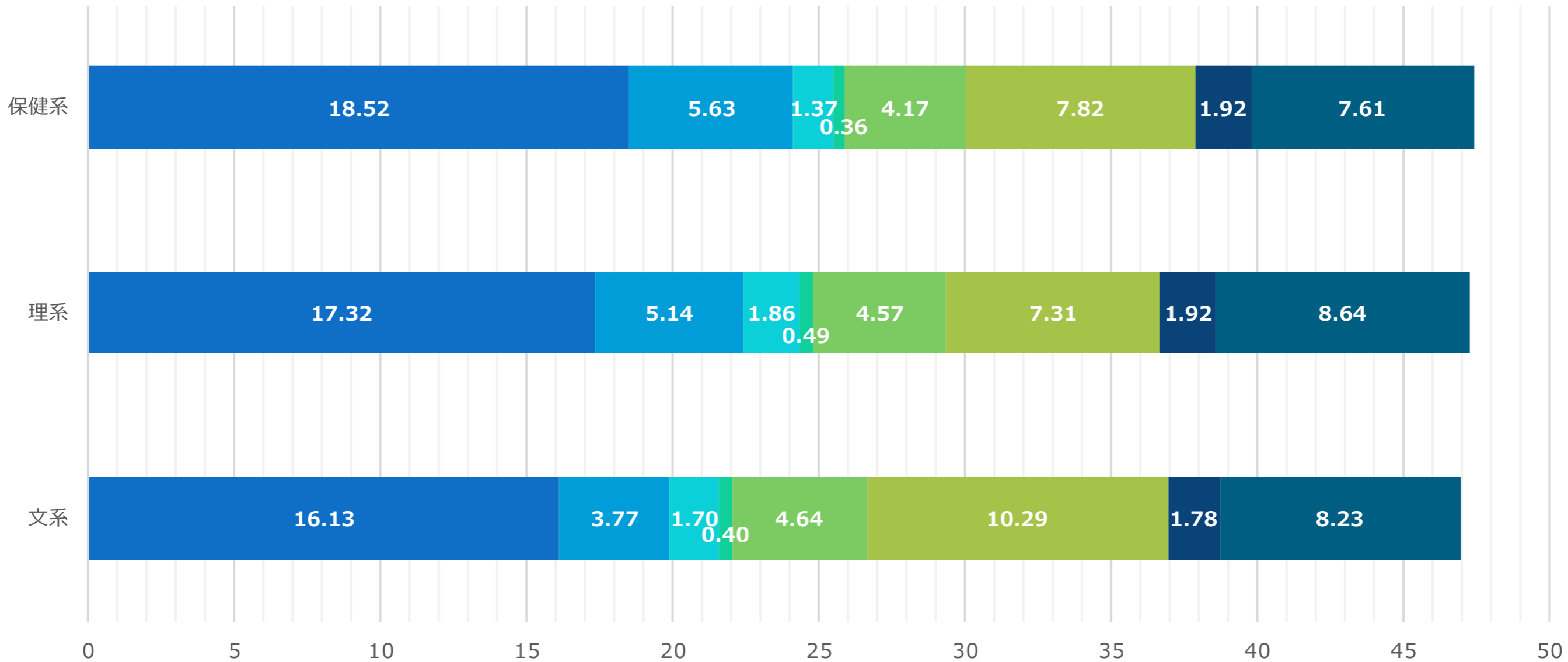
内訳：国立 11 公立 7 私立36 (2018.9.1現在)

共通学生調査

| 調査名 | ① 「一年生調査」 | ② 「上級生調査」 |
|--------|---|--|
| 対象学年 | 1年生 | 2～4年生 |
| 主要調査項目 | <ul style="list-style-type: none">・ 学籍番号、プロフィール・ 授業経験・ 学習行動、受講態度・ 正課内外の活動時間・ 知識・能力の獲得状況・ 英語運用能力のレベル・ 大学生活、大学教育に対する満足感・ 将来イメージ・ 入学前の学習経験 | <ul style="list-style-type: none">・ 学籍番号、プロフィール・ 授業経験・ 学習行動、受講態度・ 正課内外の活動時間・ 知識・能力の獲得状況・ 英語運用能力のレベル・ 大学生活、大学教育に対する満足感・ 将来イメージ・ 在学中に経験したいこと |

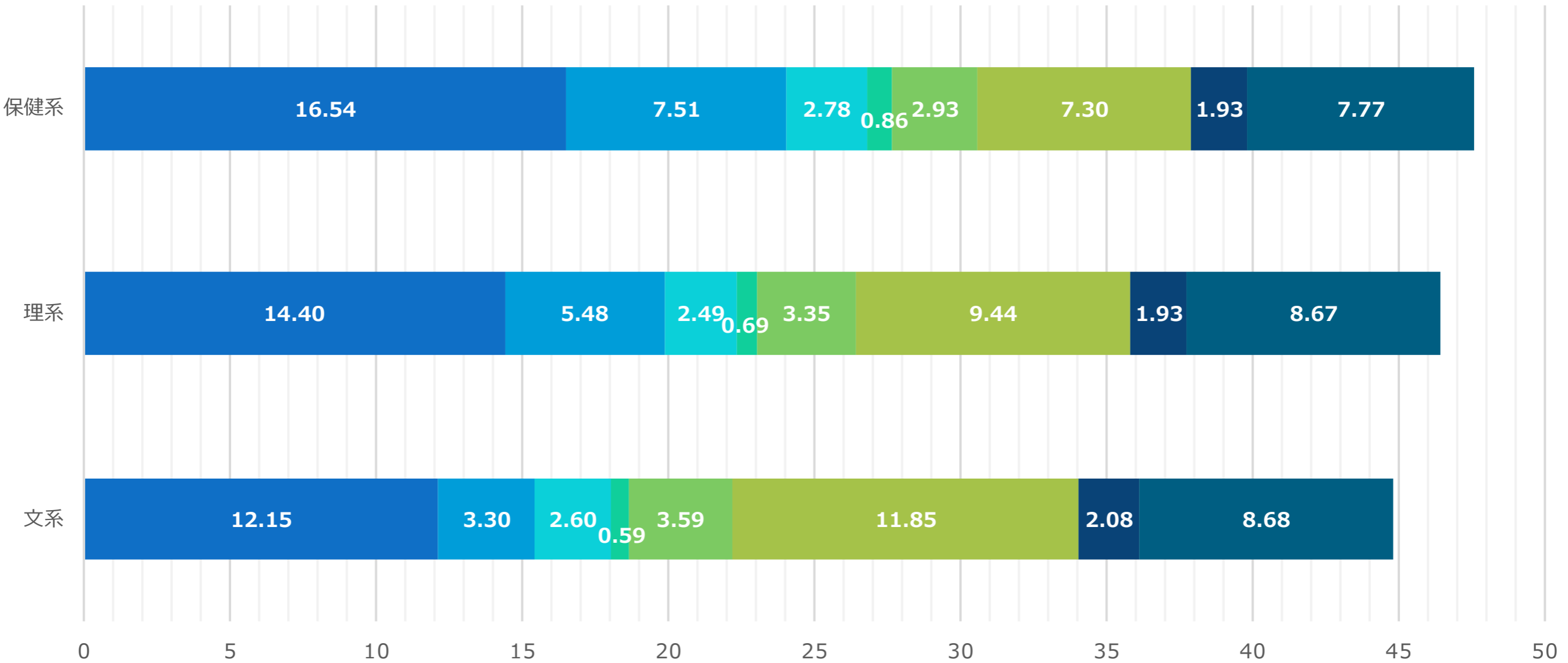
週あたりの活動時間（2017年度1年生調査）

- 授業や実験に出る
- 授業時間以外に、授業に関連しない勉強をする
- 部活動や同好会に参加する
- 読書をする（マンガ・雑誌を除く）
- 授業時間以外に、授業課題や準備学習、復習をする
- オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する
- 大学外でアルバイトや仕事をする
- 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）



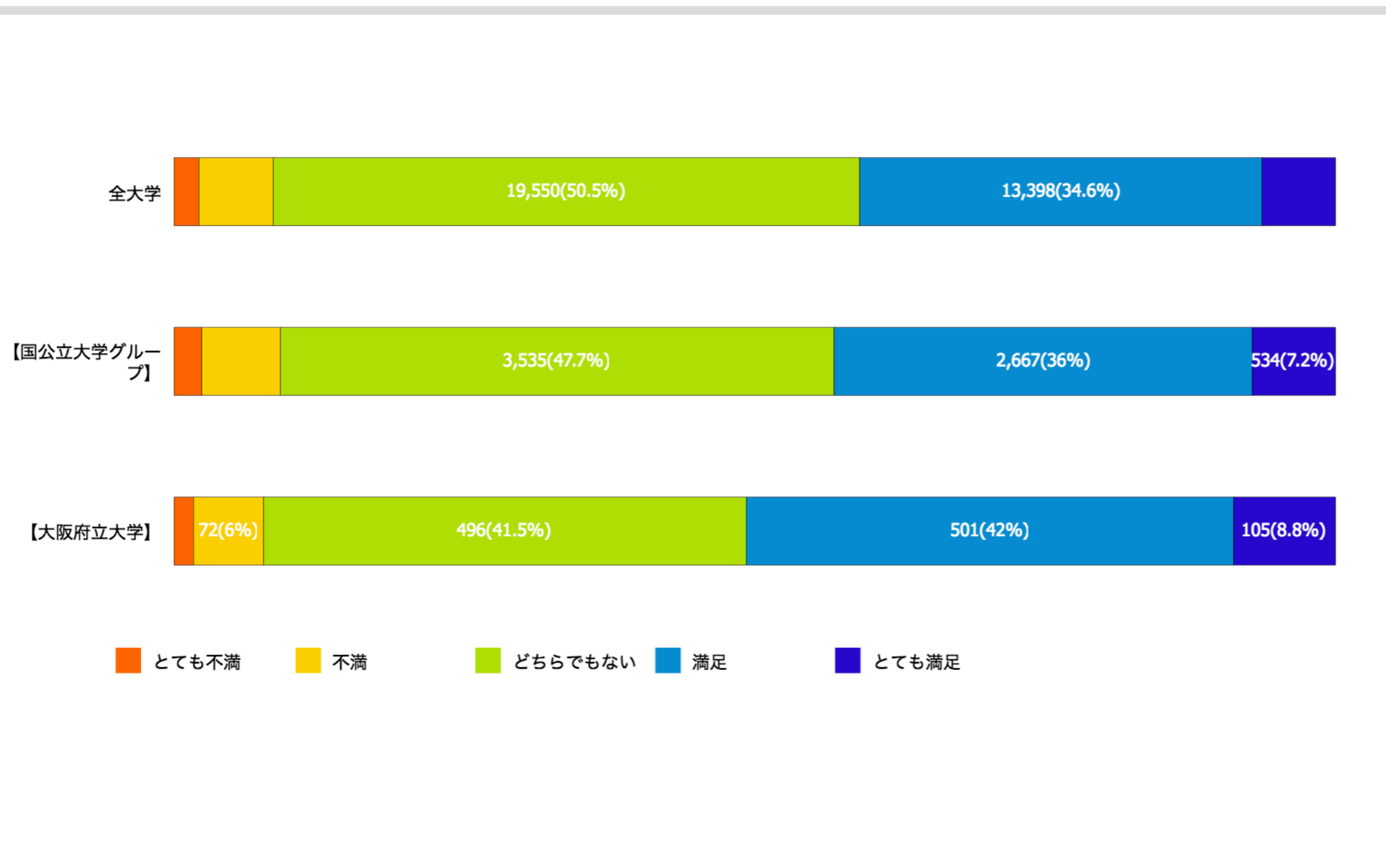
週あたりの活動時間（2017年度上級生調査）

- 授業や実験に出る
- 授業時間以外に、授業に関連しない勉強をする
- 部活動や同好会に参加する
- 読書をする（マンガ・雑誌を除く）
- 授業時間以外に、授業課題や準備学習、復習をする
- オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する
- 大学外でアルバイトや仕事をする
- 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）



授業、授業外学習時間、アルバイトで大きな差。1年生より差が拡大

[問16B]大学教育への満足度：初年次生を対象とした教育プログラム内容
(フレッシュマンセミナー、基礎ゼミなど) (相互比較画面)



大学ポータルレートの活用に向けて

- 量的データは全体集計と相互比較可能とすることが最低限必要
- まずは大学間だけでも自大学の特徴が可視化されることが必要
- 教育については学習成果をどう示すかに重点が移っていることへの対応のためにアウトカムデータも載せられるようにすることが必要